

# 長野便教会 会報

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

平成29年12月30日(土) 第90号

佐久穂・松代・篠ノ井東・更北・豊野・相森・小布施・南宮・木島平・櫻ヶ岡の10中学校に



加えて、長野市立籾内小学校から6年生の参加もあり、過去最大の150名超えの会に!

## 1 おかげさまで、清掃サミット10周年

私たち長野便教会では「10年は続けよう」を合言葉に、毎年「長野県中学校清掃サミット」を企画・運営してきましたが、とうとうその時がやって参りました。県内の小布施掃除に学ぶ会・セイコーエプソン労働組合はもちろん、県外の皆さまにも毎回応援をいただきまして、ここまでたどり着くことができました。皆々さまのおかげです。本当にありがとうございます。

今年の会場は、長野市立櫻ヶ岡中学校。これまでも会を2回開催していただき、会報82号でもお伝えしたように、校舎改築のときに仮設校舎のベニヤ板を光らせた実績のある学校です。そして今年は、創立50周年を迎える節目の年にあたり、周年事業のひとつに加えていただきまして、今回の清掃サミット開催となりました。

.....  
**清掃は『愛』だ。**

**中野市立南宮中学校教諭・井出 優貴**

清掃サミットに初めて参加し、トイレ清掃を行う中で私が感じたこと。それは、「清掃は『愛』だ。」ということでした。

清掃サミットでは、午前中に第一部として清掃リーダーの先生方のご指導のもと、トイレ清掃の実践を行いました。子どもたちとともに、汚れを発見する楽しさと、汚れを落とすことの充実感を感じられた有意義な時間でした。そんな充実した時間の中で、私の心に特に残ったのが、トイレの床をせっけんとなわしで磨く場面のできごとでした。

私たちがトイレの床を磨き上げる前に、日本を美しくする会顧問の田中義人先生がまわって来られ、実際にお手本を見せてくださいました。田中先生が少量のせっけんとなわしで磨くと、黒ずんでいた床がすぐにもとの輝きを取り戻していきました。その様子を見ていた私は、「せっけんとなわしがあれば、案外簡単にキレイになるものだな。」なんて内心思っていました。

ところが、いざ実際に自分が床を磨いてみると、まさに「見るとやるでは大違い」。せっけんを少し多めに使っても、たわしを握る手に力を思いっきり込めても、床はなかなかキレイになりませんでした(腕力には多少自信がありました)。 「清掃は『力』じゃないんだ。」田中先生が磨いた床と自分が磨いた床を、あらためて見比べた時に感じたことでした。

その時、トイレ清掃の実践前に開会式の中で田中先生からお聴きしたお話を思い出しました。それは、「汚れは『力』で強引に落とすものじゃない。どうしたら落ちるのか汚れと向き合って、時には科学の力を借りながら、清掃用具や清掃方法を考えることが大事なんだ。」というお話でした。トイレ清掃を終えて、最後にお掃除を通して自分が感じたことを語り合う時間がありました。そのとき、「清掃は『愛』だ。」私の口からふと出てきた言葉でした。

今回の清掃サミットを通して、「汚れを落とす」こと自体よりも、「汚れを落とすために『汚れとどのように向き合うか』という過程の大切さ」を子どもたちに伝えていくことが大事なのではないかと感じました。

「汚れと向き合う」ということは、「いかに傷つけることなく汚れを落とし、もとの美しい状態に戻せるかを考えながら清掃すること」。つまり、その清掃場所に対して『愛』をもって接するという事。清掃に対する『愛』を伝えることは、もしかしたら人に対する『愛』を伝えることにもつながってくるのではないかと感じたからです。

清掃は、人への思いやりの心や優しさ伝えることができる可能性を秘めている素敵なものだなと感じました。今回の清掃サミットでの貴重な経験を活かし、まずは自らの清掃に対する『愛』をより深めていく2学期にしたいと、決意を新たにしました次第です。

この井出先生の「清掃は『愛』だ」に触発された先生がおいでです。井出先生と同じ班でお掃除された松本市立筑摩野中学校の原聖一先生です。

自分の掃除はいかに「ひとりよがり」だったか 松本市立筑摩野中学校教諭・原 聖一

これまで私は自分のことを「掃除好き」だと思っていましたが、自分の掃除はいかに「ひとりよがり」だったかということ、今回の清掃サミットで気づかせてもらえました。

女子トイレの床をタワシでこすった時、リーダーの武田光枝先生にカネヨンの量が多すぎることを指摘されました。多量の洗剤でこすった床よりも、少量の洗剤で丹念にこすった床の方が輝いて見えました。洗剤を沢山使えばきれいになるだろうと思っていた浅はかな自分を、床に心を尽くして掃除をしていなかったこれまでの自分を見せられたようでした。

床にタワシをあて、床にとって良い角度や力加減を考えながら、時間をかけてこすっている時、隣で同じように床をこすっていた南宮中の井出先生が「掃除は、愛なんだな」とつぶやきました。その言葉が、私の心にも意味をもって沁みていきました。

床への接し方は、子どもへの接し方と重ねることができそうです。これまでひとりよがりだった、私の子どもへの接し方。洗剤のように、子どもに与える物や課題に頼っていた私。ていねいに時間をかけ、その子のことを考えて心を尽くすことが大事であるということ、トイレの床から教えてもらえたように思います。

このような気づきのきっかけをいただいた、今回の清掃サミットに、誘ってくださった同僚の倉島小有美先生に、教えてくださったリーダーの武田光枝先生に、一緒に掃除ができた方々に、櫻ヶ岡中学校の女子トイレの床に、感謝いたします。ありがとうございました。

今回もご参加いただいた愛知の高野修滋先生が、「便教会の原点」として大切にされていることは「教師が下座におり、教師が変容していくこと」です。今回の井出先生・原先生の若いお二人の先生の姿は、まさにこの「便教会の原点」そのものです。このお二人の先生の姿は、同じ班でお掃除をした生徒さんたちの心にも、かなりの影響を与えているようです。代表して開催校・櫻ヶ岡中2年生の丸山くんの感想をお届けします。

すみずみまで掃除をするということは 長野市立櫻ヶ岡中学校2年・丸山 空真

今日の清掃サミットに参加して、清掃をとことんやるにはどうしたらいいかがすぐわかる時間がものすごくあって、「今までやっていた清掃が何だったんだろう」と思えるような時間でした。毎日の清掃に心をこめて、気持ちをこめてやった方が、自分の心を掃除した床のようにピカピカにできると知りました。

気持ちをこめてやるということは、「愛」を意味しています。自分自身に愛をこめて、床にも愛をこめて、校舎に愛をこめて、と自分にはそうやって聞こえました。逆に言えば、今まで自分がやってきた清掃は、自分の心にうそをつき、憎しみをもってやっていたというようにも思えます。

すみずみまで掃除をするということは、心のすみずみをきれいにする。たとえ奥に汚れがあったって立ち向かう気持ちを、僕は今日知りました。

早いもので、今年もあとわずか。参加していただいた皆さまの2学期のお掃除はいかがでしたでしょうか。1学期の自分と比べて、何か少しでも前進してくれていたらうれしいです。

2 お知らせ

○小布施掃除に学ぶ会・月例会→毎月第2日曜朝6時～8時30分(5:45にはご集合ください)

スタート以来、第2日曜日に実施してきた月例会ですが、今年度より第2土曜に変更しています。会場は栗ガ丘小学校で変更ありません。ご参加お待ちしております。

今年の清掃サミットも、林臣彰校長先生をはじめ、嶋田勝彦教頭先生、清美委員会顧問の高野宏先生他、ご協力いただいた櫻ヶ岡中の先生方・前日準備から進んで動いてくれた生徒の皆さんのおかげで、無事成し遂げることができました。ありがとうございました。また、前日の10周年の記念講演会では、講師として上田情報ビジネス専門学校副校長の比田井和孝先生をお迎えし、いつもにも増して熱く語っていただきました。20周年もお願いします(笑)。今年も発行が遅くなってしまい、申し訳ありません。よいお年を。

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明(山ノ内町立南小学校教諭)  
携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp

小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>